令和５年度北海道地方競馬運営委員会議事録

（日時　令和５年８月３日（木）16:30~17:45
場所　門別競馬場　Ａスタンド３階来賓室）

１　開会

（競馬事業室　木村参事）

２　あいさつ

（競馬事業室　安田室長）

- 令和５年度北海道地方競馬運営委員会の開催に当たり、一言御挨拶。
- 平本委員長様をはじめ、委員の皆様方には、お忙しい中、御出席いただき感謝。また、日頃から道政の推進はもとより、ホッカイドウ競馬の運営に御理解と御協力を賜り、厚く感謝。
- この度の門別競馬場での開催はこれまでも開催してきたが、コロナで中止していたが、この度５類に移行したことから久しぶりに現地で開催させていただいた。
- 今年のホッカイドウ競馬は、4 月 19 日に開幕し、開幕当初から門別競馬場での各種イベントの開催や、札幌からの送迎バスを４年ぶりに再開するなど、コロナ禍前の対応に戻しながら来場促進に取り組んでいるところ。
- また、新たなファンの獲得に向けて、公式ユーチューブチャンネルの充実や先ほどご覧いただいた坂路調教の映像を提供するなど、ホッカイドウ競馬の魅力発信に力を入れており、現時点では御陰様で発売額も順調に推移。昨日までの 39 日間で 240 億円の発売となり、前年対比で 101％となっている。
- 本日の議題については、令和４年度のホッカイドウ競馬の収支状況と令和５年度の開催状況について御報告させていただくとともに、現在、第３期北海道競馬推進プランに沿って競馬事業に取り組んでいるが、計画策定から３年目となる本年度は中間年となっていることから、プランの推進状況などについて中間点検をしていただきたいと考えている。
- ホッカイドウ競馬は馬産地競馬として、年間レース数の約３割が２歳馬のレースとなっており、春先の馬の確保、特に３歳馬の確保が課題。また、老朽化した競馬場の基幹施設の整備についても今年度から始まることから、こうした計画についても御意見をいただきたい。
- ホッカイドウ競馬は馬産地に立脚した競馬として、地域の経済・雇用を支え、全国の競馬場に強い競走馬を供給する役割を担っていることから、今後とも、馬産地をはじめ競馬関係者と連携しながら、その役割が果たせるよう競馬事業の安定的な運営に取り組んでまいるので、委員の皆様には、本日は忌憚のないご意見やご提言をお願いし、開会の挨拶とさせていただく。本日はよろしくお願いします。

3　議題

（1）出席状況報告

（事務局　木村参事）

・　はじめに、本日の委員の出席状況を御報告。委員 11 名のうち８名が出席され、北海道地方競馬運営委員会設置条例で定める過半数の御出席をいただいており、本委員会は成立していることを報告する。

・　次にお手元の資料の確認。次第、出席者名簿、配席図、資料１、資料２、資料２参考資料を用意したのでご確認をお願いしたい。

・　本年１月 11 日をもってこの運営委員会が新たな体制となり、第１回目の運営委員会を３月 15 日に札幌で開催させていただいたところ。本日、新体制での御出席が初めてとなる委員の方々を御紹介。まず、新冠町長の鳴海修司委員です。

（鳴海委員）

・　鳴海です。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局　木村参事）

・　続いて、北海道農業協同組合中央会副会長理事の小椋茂敏委員です。

（小椋委員）

・　北海道農業協同組合中央会の小椋です。よろしくお願いいたします。

（事務局　木村参事）

・　小椋委員におかれては、組織の役員改選に伴い、先月新たに運営委員に御就任いただいたので御報告。

・　それでは、この後の議事の進行を平本委員長にお渡しするので、よろしくお願い。

（平本委員長）

・　平本です。今日は、５年ぶりに門別競馬場での開催になると思うが、この間に、来賓室やとねっこラウンジなど新しい施設が色々できており、拝見して驚いた。限られた時間だが、委員の皆様に積極的に御発言いただき、御議論いただければと思うので、どうかよろしくお願いします。

・　議題１について事務局から説明をお願い。

（2）令和４年度ホッカイドウ競馬の収支状況及び令和５年度ホッカイドウ競馬の開催状況について

○　競馬事業室　福士主幹より資料１を説明。

（平本委員長）

・　只今の御説明の内容について、御質問御意見があればお願いしたい。

・　先ほど、今後、次の計画期間中も含めてきゅう舎等の整備に当たって、4 ページの右側の単年度収支のところで整備費が拡大していくという話だったが、いわゆる単年度収支で黒字になる金額というのを、だいたいいくら位までを見込んで、経費の部分を増やしていくという見通しをお持ちか。例えば、令和 4 年度は 33 億円の黒字になっているが、例えば 20 億円くらいまで減っても大丈夫などの目安はお持ちか。

（事務局　木村参事）

・　昨年度、単年度収支で 33 億円の黒字となったが、今後は施設整備を進めていく中で、整備の全体事業費との相関関係にはあるが、我々としては、発売額が 3 年連続 500 億円を超えているので、1 つの目安として 500 億円を考えている。計画額としては 458 億円と置いているが、少しでも黒字を出して整備の財源に回していきたい。黒字になった分は基金に積み立て、整備の財源に充てることを考えている。前年並みの黒字、利益とはいかなくても、委員長がおっしゃられたように毎年コンスタントに 20 億円程度を基金に積み立てていくイメージは持っている。まだ、整備の基本設計が出来ていないので、金額が固まっておらず不透明だが、やはりイメージとしてはそれくらいの黒字を出していきたいと考えている。

（平本委員長）

・　今、整備費用だけに関連するような形でお尋ねしたが、賞金等の緑色の部分についても令和 3 年度から令和 4 年度にかけて大きくなっていて、これが馬主さんたちにとってのホッカイドウ競馬に馬を出走させる 1 つのインセンティブになるということだが、他場でも同じような形で賞金や出走手当を上げることが行われている時に、いわばいたちごっこになっているという御説明も事前に伺っており、ホッカイドウ競馬の魅力度を上げていくために支出しなければならないコストとしてのお金がある中で、収支としての黒字額をどれくらい基金に回していけば持続的な経営ができるのかという観点でお尋ねした次第で、20 億円くらいを基金に毎年積み立てていければというお気持ちであるということがわかり、十分お答えいただいた。ありがとうございました。

（石川委員）

・　6 ページの無料送迎バスの利用状況について、ＪＲ鵡川駅発というのは以前にもあったか。

（事務局　木村参事）

・　今回初めての実施。

（石川委員）

・　鵡川駅発にしたのはどういう利用者層を狙ってのことなのか。

（北海道軽種馬振興公社　濱田事務局長）
・　今年初の取組だが、千歳空港を拠点にこちらに来られるお客様をターゲットに、近隣の駅となる鵡川駅から運行テストしてみようと始めたものだが、状況としては低い水準。

（石川委員）
・　実はこれを見て正直なところ、鵡川駅までＪＲで来られる方がどれくらいいるのかと思った。新千歳空港発にしたほうがよいのではないか。例えば、新千歳から途中途中で拾っていくとか、そういう形にしたほうが乗車率は高まるのではないか。

（北海道軽種馬振興公社　濱田事務局長）
・　色々検討させていただく。ありがとうございます。

（平本委員長）
・　せっかくバスを運行するのなら、色々な方が利用できるほうが良いだろうという趣旨の御発言かと思うので、御検討いただければと思う。

（浜近委員）
・　在きゅう頭数について、２歳馬が減って古馬が増えているがこの理由はなにか。２歳馬が南関東など他場に流れているのか。

（事務局　木村参事）
・　令和４年と５年の在きゅう頭数を比べると、２歳馬が減っている形となっている。門別競馬場は約 900 頭在きゅうさせることができるが、器が決まっている。
・　令和５年度に向けての手当のターゲットについては、古馬の出走手当の引き上げなど、どちらかというと２歳馬よりも３歳以上の馬に対する手当や賞金の見直しのウエイトを高くした。見直しのアナウンスについても、昨年の夏のうちから各馬主にサウンディングを行い、その成果として３歳以上の馬が集まってきた。器が決まっているので、若干数字的に２歳馬の入れ替わりが出てきた形となっている。他場とのレースの兼ね合いといった影響は今のところないと考える。

（浜近委員）
・　古馬が増えたことは戦略どおりということか。

（事務局　木村参事）
・　令和４年度はあまりにも頭数が集まらず、開幕から６月、７月前まで古馬の頭数が揃わず、１日の頭数が 90 頭程度で、レース数も 10 レース、酷いときは 9 レースしか組めなかった日もあった。またレースを組んでも、1 レースの頭数が８頭や７頭といった

少頭数のレースが多かった。これではファンもついてくれなくなるので、そこを改善するために、先ほど申し上げたとおり、令和５年度に向けては古馬の確保に力を入れたところ。

（３）第３期北海道競馬推進プランの中間点検について

○　競馬事業室　福士主幹より資料２を説明。

（山下委員）

・　券売機の改修についての説明があったが、キャッシュレス投票端末は、門別競馬場とAiba 札幌駅前にあるが、キャッシュレス端末への移行について、他の Aiba でも導入することを想定されているか。

（事務局　木村参事）

・　現在、門別本場と札幌駅前に導入しているキャッシュレスは数年前に試験的に導入したもの。門別に導入した１つの動機は、敷地が広く、これまでスタンドまで行かないと馬券を買えなかったので、できるだけ芝生のほうでも買えるようにと導入した。当初、ジンギスカンを食べながら馬券が買えるように、サマーハウス等に端末機を置いていたが、その後、キャッシュレス専用施設のとねっこラウンジを設置するなど、色々試行錯誤を繰り返しながら、手軽に馬券が買えるようにということで進めてきた。しかし、現金機との併用では、まだ現金機で購入される方のほうが多い。

・　将来的なキャッシュレスの導入方針について、現在まだ詳細な方向性はないが、場外発売所や門別競馬場での従事員の確保が難しくなってきており、キャッシュレスに移行することで、バックヤードの従事員が現金機より少なくなるので、今後、雇用の部分でキャッシュレス導入の必要性が出てくるのではないかと考えている。

（山下委員）

・　例えばＪＲＡのキャッシュレス投票では、ＵＭＡＣＡポイントという購入金額に応じたポイント制度が今年から始まった。ポイントが貯まることで、例えば場内の飲食店で使えたりする。例えばそういったキャッシュレス投票のポイント制導入を将来的に何か考えているか。

（事務局　木村参事）

・　ＪＲＡのように日常的に購入してポイントが付くようにするには、システムの改修など経費がかかるため今すぐには難しい。現状の対応としては、例えばブリーダーズゴールドカップなど大きなレースの際には、場合によってはその日限定でキャッシュレス利用者に対して抽選で割引券を出すなどの取組は行っているので、そうした取組は継続していきたいと考えているが、ＪＲＡのように継続的なポイント付与は経費面の関係から難しい。

（西村副委員長）

・　１つずつお聞きしたいが、資料２に記載の新種牡馬、ファーストサイヤーのレースについて、モーニン産駒も２、３頭出走していたが、はっきり申し上げて宣伝が下手だったのではないか。その日になって初めて分かった。また、北海道でしか出来ないレースであり、前回の委員会では全国的に注目されるレースではないかとの話だったが、それにしては報道機関も含めて宣伝の仕方がどうだったか。１レースの売上がどうだったかもお聞きしたいが、今年は今年として、来年も新種牡馬産駒が沢山出る予定なので、今年の経験を来年に生かして、北海道ならではの注目されるレースの作り方をして欲しいと感じる。

（西村副委員長）

・　もう１つは、来年から統一ダート交流競走が南関を中心に数多く始まるが、先ほど古馬の在きゅうが増えているという話だったが、今年の北海優駿（ダービー）がどれだけ盛り上がったか疑問。ダービーというのはやはり馬の一生の中で最高のレースと思うが、賞金が佐賀で 2000 万円になったり、高知でも 1600 万円になったりしているにもかかわらず、北海道の賞金はどうか。売上が北海道とさほど変わらない主催者でもそれなりの賞金を用意している。これだけ馬が沢山いるのに盛り上がりがどうなのかということが心配になってくる。交流レースを含めて北海道に在留する３歳馬が今後どうするのかといった時に、例えば北海道に所属して南関に向けて戦っていく中で、ミックファイアのように北海道にも大きなスター性のある馬をつくっていかないといけない。先ほど坂路を見たが、強い馬づくりの環境としては北海道が一番だとするならば、興行として全国的なスター馬、強い馬を出さないといけないということに関して、今後、３歳の移籍を止めるために何をしなければいけないのか考えないといけない。あるいは、北海道で強い馬になったら、ストレスなくリスクなく遠征できるような仕掛けをする必要がある。例えば、遠征時に調整、滞在できるきゅう舎を確保するとか、途中で馬を休ませる輸送をするとか。北海道所属で戦っていくことが、３歳馬の北海道競馬への在きゅうにつながるのではないかという気がする。来年度から全国規模で行われるレースに向けて、北海道としてどういう考え方をしているのか。

（西村副委員長）

・　もう１つ、皆さんテレビでご覧になったと思うが、淡路の西海岸開発の番組。朝陽は売れないが、夕陽は商売になるといった話。淡路島の西は夕陽がとても映えて、そこを東京の企画会社が仕掛けたと思うが、ソフトクリームを１つ食べるのにもそれをバックにすることで映えて、何十万人も訪れるようになった。東側も、西側に負けないように既存の農家ががんばりはじめ、酪農を含めての食べ物を提供するようになった。昨日もこちらに来た時に、親子で韓国や台湾から来ていた人たちが競馬を楽しみに来ていてとても良いと思ったが、ここに競馬以外に食など何を合わせられるか。今のままで良いのか。合わせ技で何か考えていかないと。せっかくお金をかけて砂を映えるようにされて

いるので、そうした環境も整える必要があるのではないか。きゅう舎の施設にお金がかかるので、あれもこれもという訳にはいかないと思うが。そのあたりの考え方はどうなのかお聞かせいただきたい。

（北海道軽種馬振興公社　濱田事務局長）

・　新種牡馬の新馬レースについて、色々なご提案を受けて取り入れさせていただいた経過があったが、正直申し上げて御指摘のとおり大変反省すべきと思っている。まず、きゅう舎関係者も含めて周知を十分にできなかった。馬産地競馬としては非常に価値が高いレースと考えているので、今後色々な工夫をしていきたいと考えている。例えば、あのレースに限っては、事前に調教師に告知し予備投票のようなことを事前に行って、出走馬を早めにお客様にお知らせする方法を採用することなどを考えながら、次回に向けて改善していきたい。

（山下委員）

・　新種牡馬限定の新馬戦のレースについて、地全協の出馬表に新種牡馬限定の記載がなかったことがＰＲとして弱かったのではないか。また、昨年、佐賀競馬で九州産馬限定のレースが行われていたが、地全協のホームページのトップページのほうに告知があった。地全協に働きかけてお客様向けにＰＲしたほうが盛り上がるのではないか。

（北海道軽種馬振興公社　濱田事務局長）

・　色々参考にさせていただく。ありがとうございます。

（事務局　木村参事）

・　新種牡馬のレースについては、色々反省すべき点があるので、今回の御指摘を踏まえて来年に向けて改善できるものは改善し、ＰＲを充実できるようにしていきたい。

（事務局　安田室長）

・　３歳馬の取組については、御指摘のとおり北海道のダービーの賞金が他の主催者より劣っていることは我々も認識している。来年度に向けて、強い３歳馬をつくる上で見直していかなければならないと考えている。また、強い３歳馬を残していくためには、在きゅう対策も必要であり、他の強い馬と戦っていくための遠征費の支援も必要と考えており、令和６年度に向けて検討していきたい。特に新たなダート三冠競走も出来るので、そこに出走して良い成績を収め、スター馬を作っていけるようしっかり取り組んでいきたい。

・　遠征リスクの話については、地全協と色々相談しているところ。北海道から遠征するにはリスクがあるので、リスク回避に向けて、滞在できる場所の確保などについて地全協とスピード感を持って進めていきたい。

・　淡路島の話は視聴しておらず申し訳ないが、競馬以外を目的に来られるお客さんを引

きつけ、そこから裾野を広げていく取組も必要。本日も日高町の方に来ていただいているが、地元の食材を生かすなど競馬以外にも魅力ある競馬場づくりについて、お知恵を借りながら取り組んでいきたい。

（糸井委員）

・　私事ということもあるが、誘導馬メジロゴゼンについて、６月の北海優駿の前に騎乗者が誰もいなくなり、どうするという話になって、結局、北海優駿から先月末まで私が騎乗していた。次の乗り役が決まるまでの間、ホッカイドウ競馬さんに募集をかけて欲しいと何度か言ったが、結局公募されないまま、一昨日から私の友人が 11 月の途中まで騎乗することで何とか人を確保できた。11 月中旬に競馬が終わった後、メジロゴゼンは出ていって、翌年４月に戻ってきてまた騎乗者を探すということを毎年繰り返されているが、11 月途中までの季節雇用で、かつ誘導馬に乗るためにはある程度のレベルが必要となると、そもそも人が少ない今の時代、誰も応募してこないのではないかと痛感する。私自身はメジロゴゼンに乗馬の時に助けられた想いがあるので、何とか次の乗り役を見つけたというのはあるが、人がいないならいないなりにしっかり公募をかけて欲しかった。

・　11 月以降はうちの町のライディングヒルズに在きゅうすると思うが、施設が整備される際には、ぜひ馬の交流エリアに誘導馬を置いて、１頭だけでなくそこから何頭も出して、開催がないときにはそこに会いに行けるような、そういった施設づくりをしていただきたい。

（事務局　木村参事）

・　騎乗員の確保については、毎回繰り返しのようになっているが、開催を委託している公社でも課題として捉えている。なかなか人の確保は難しい部分はあるが、来年に向けて同じ轍を踏まないように、どうすれば良いか今後検討していきたい。

（事務局　安田室長）

・　昔、テン太というやんちゃな誘導馬がいたが、魅力があってお客さんにもかわいがっていただいた。気が荒いので乗り役は苦労したかと思う。誘導馬には誘導馬としての競馬場での位置付けがあるので、しっかり誘導馬確保に向けて取り組んでいきたい。

（小椋委員）

・　本日から参加させていただいているが、競馬場の敷地内の整備については、以前から説明されてこられたことと思うが、これだけの整備をするとなると相当大がかりな事業になる。地全協の補助金も活用されるとのことだが、基本的には今までの積立金を使ってこれだけの大きな事業を進めることになるのか。

（事務局　木村参事）

・　競馬場整備の財源の基本は、これまでの益金で積み立てている北海道地方競馬事業経営安定基金で、これに地全協からの補助金も加えながら整備していく。財源の基本は積立金となる。

（小椋委員）
・　当然、きゅう舎が古くなってきているので新しいきゅう舎や施設を整備しなければならないと思う。これから入札や見積もり合わせなどが進められると思うが、整備に要する経費は総額でどの程度かかるのか。

（事務局　安田室長）
・　現在、基金に令和４年度末で 106 億円あるが、まずきゅう舎の移転を地全協の補助金を貰いながら今の 106 億円の中で取り進めていく。次の業務エリアやファンエリアの整備は、先ほど毎年 20 億円程度の積立を目標にしていると説明したが、令和６年度から９年度までの積立金を財源に整備を進めていく。なお、実際の金額については、現在、業務エリア、来場者エリア、居住エリアの基本設計をかけているので、それが出来上がれば概算金額が出てくる。

（石川委員）
・　競馬場に来て下さる方に競馬以外でどのように愉しんでいただくかについて、これから作られる紫色の交流エリアに非常に期待している。以前、お客様を連れてこちらの方に来た時に、その方はこちらが馬産地と知らないで来ていて、来てみると牧場が綺麗で馬がいて、せっかくだから馬に乗りたいという話になったが、事前の予約なしで気軽に乗馬できる場所が見つからなかった。やはり馬産地なので、是非とも交流エリアを充実させていただきたい。それとともに、そこでせっかく雇用が生まれても冬場はどうするのかという問題がある。冬場にどう活用するかも大事なのではないか。例えばゴルフ場では、冬の間はスノーパークにして人を呼んでいるところもある。この辺りは冬の間はどうのような状況か。雪は少ないか。

（事務局　安田室長）
・　札幌に比べると積雪量は少ないが、年に１、２回はドカ雪が降る。

（石川委員）
・　そうすると雪の利用は無理にしても、空いている時間を使って、ある団体だけに独占的に利用してもらうとか、冬の間に特別感のある仕掛けを作って、通年で雇用を確保することができれば一番良いのではないか。質問ではなく意見として申し上げた。

（平本委員長）
・　通年でといった問題や、馬産地なのに気軽に馬に乗れる場所がないといった課題があ

るが、そういう問題にどのように対応するかは難しいことかと思うが、せっかくの整備計画の中で交流エリアが計画されているので、こういうところが門別競馬場の魅力向上に大きくに貢献すれば良いというふうに私も思う。

（事務局　安田室長）

・　交流エリアについては、令和９年度までは先ほどご説明した施設を整備し、その後に整備することになる。委員会などで色々な意見をいただきながら、我々としてはより良いものを作り上げていきたい。少し先の話になるが、色々な機会に御意見を伺いながら検討していきたい。

（４）その他

（平本委員長）

・　議題の３のその他について、事務局から特段の用意はないが、この際なので今日の議題に関連するしないを問わず、ホッカイドウ競馬の運営等に関して、委員の皆さんから何か御意見などあればお願いしたい。

（西村副委員長）

・　競馬法が改正され、生産者対策など色々なことが恒久的にということで、これまで時限のあった支援措置が恒久化され、将来を見越して畜産振興に寄与する形になった。道営競馬の場合、先ほど基金の利益をすべて施設整備に充てるという話があったが、生産者として心配しているのは、過去に利益が落ちた時に、存続が危ぶまれ廃止論が出たことがあった。施設に利益を還元して、ある程度施設整備が終わった後には、興行に対して持続的にお金を使っていくことになるが、基金にお金を残していくという考え方は続いていくのか。景気に左右される産業なので、落ち込んだときにどのように対策を練っていくのか、過去を考えたときに不安がある。

（事務局　安田室長）

・　今は施設整備という目的を持って基金を積んでおり、一方で一般財源にも益金を繰り入れている。昨年は約８億７千万円を一般財源に繰り入れている。目的をもって積み立てているが、競馬の安定のためにはある程度残しておかないと何かあった時に耐えられない。何かあったときのためのセーフティネットの部分も必要なので、そこは財政課とも協議していきたい。

（事務局　木村参事）

・　今、積み立てている基金は地方競馬事業経営安定基金であり、決して施設整備だけを目的としている訳ではなく、地方競馬の安定的な運営のために積み立てていく趣旨で条例で定められている基金。過去には調子の良かった時には基金を積み立て、赤字の際に基金から補填していたこともあった。今は施設整備がメインになっているが、将来的

には持続的に運営できるように基金を積み立てていく。

（糸井委員）

・　今、新ひだか町から委託を受けて馬産地の色々なことを学ぶうまキッズ探検隊の取組を実施しているが、それ以外に学校教育でも、新ひだか町では馬に関することを各小学校が１年生から６年生まで通じて学ぶような関係が少しずつ出来ている中、昨日、元々静内にいて富川に異動された先生から、富川でも学校の授業で馬のことをやりたいといった相談があった。学校から競馬場が近いので、小学校でも競馬場の中を見学するなど、うまキッズだけでなく、学校や地域の子供たちにも実施するような流れがもしかしたら今後できてくるのではないかと考えているが、進めるに当たって、行政を通したほうが良いのか、それともホッカイドウ競馬に働きかけて一緒に授業をやっていったほうがよいのか。どういう流れで進めるのが一番良くて、ずっと定着していくのかを考えているところ。日高町が近いので、地域に根ざした取組として、これから学校授業があったとしたら、積極的に受けていくような流れを作っていきたいと思うのかどうか、それとも行政と一緒にやったら良いのか、急に答えは出ないかもしれないが、そういった話も出てきている。

（事務局　安田室長）

・　色々なやり方があると思う。自分が公社にいた頃、小学校の子供たちを体験させたことがあった。学校側から競馬場の仕事を知りたい、体験させたいということで、子供たちを一日競馬場に受け入れたことがあった。その時は行政は一切関与せず、直接学校からお願いされて受け入れた。色々なやり方があるので、まずは何を体験、学習したいのかを公社に相談いただければと思う。公社で、行政を通した方が良いとなれば、行政、我々も入ることもできるので、そこは御相談かと思う。そうした受入体制は公社も出来ていると思う。

【まとめ】

（平本委員長）

・　今日は、第３期北海道競馬推進プランの中間年ということで、皆様方から点検をしていただくとともに、さらにその先のホッカイドウ競馬を持続的に運営するためにどういうことが必要なのかということについての様々な御意見をいただくことが出来た。軽種馬の産地としての北海道が公営競馬を持っている意義を考えると、やはり持続的にホッカイドウ競馬が回っていくことがとても重要。今後も運営委員会が開かれる予定だが、引き続き委員の皆様方から様々な御意見をいただきならが、ホッカイドウ競馬、地方競馬がうまく回っていくことを願って、本日の委員会を閉じさせていただく。それでは事務局に進行をお返しする。

（競馬事業室　安田室長）

・　本日は限られた時間の中、沢山の貴重な御意見をいただきお礼。今後もファンサービス、魅力ある番組づくり、強い馬づくり、また競馬だけでなく、競馬場全部を使っていくことで競馬事業の安定につなげていきたい。本日はありがとうございました。

（以上）